



2019年1月22日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社  
代表者 代表取締役社長 CEO 安川 健司  
コード番号 4503  
(URL <https://www.astellas.com/jp/>)  
東証 (第一部)  
決算期 3月  
問い合わせ先 広報部長 緒方 スティグ

## KM バイオロジクスとの ヒト用ワクチン等および血漿分画製剤の契約満了のお知らせ

アステラス製薬株式会社(本社:東京、以下「アステラス製薬」)は、KM バイオロジクス株式会社(本社:熊本、代表取締役社長:永里敏秋、以下「KM バイオロジクス」)が製造販売し、アステラス製薬が販売するヒト用ワクチン等および血漿分画製剤(以下「対象製品」)の販売提携に関する契約(以下「本契約」)が2019年7月31日をもって満了しますので、お知らせします。本契約の満了に伴い、以下の通り販売を移管する予定です。

対象製品のうちヒト用ワクチン等については、KM バイオロジクスが同社と同じ明治ホールディングス株式会社傘下の Meiji Seika ファルマ株式会社(以下「Meiji Seika ファルマ」)と締結した販売契約に基づき、2019年4月以降、アステラス製薬が保有する各製品の在庫がなくなり次第、順次 Meiji Seika ファルマが販売を行います。なお、これまでアステラス製薬が行ってきた医療機関等への当該製品に関する情報の提供・収集活動は、2019年4月1日から Meiji Seika ファルマが行う予定です。

対象製品のうち血漿分画製剤については、KM バイオロジクスが一般社団法人 日本血液製剤機構(Japan Blood Products Organization: JB)と締結した販売契約に基づき、2019年8月1日から JB が販売および医療機関等への当該製品に関する情報の提供・収集活動を行う予定です。

アステラス製薬と KM バイオロジクスは、対象製品を引き続き安定的に患者さんにお届けできるよう、Meiji Seika ファルマ、JB とそれぞれ協力して、円滑に販売の移管を行います。

## 主な対象製品

### ● ヒト用ワクチン等

インフルエンザ HA ワクチン「KMB」、クアトロバック<sup>®</sup>皮下注シリンジ、  
エンセバック<sup>®</sup>皮下注用、ビームゲン<sup>®</sup>注、エイムゲン<sup>®</sup>  
組織培養不活性狂犬病ワクチン、乾燥まむし抗毒素「KMB」 など

### ● 血漿分画製剤

ボルヒール<sup>®</sup>組織接着用、コンファクト<sup>®</sup>F 注射用、ノバクト<sup>®</sup>M 静注用 など

## アステラス製薬による対象製品の売上実績

売上合計:約 240 億円(2018 年 3 月期 仕切価ベース)

以上

## KM バイオロジクスについて

KM バイオロジクス株式会社は、熊本に本社を置き、「予防、治療のプロフェッショナルとして生命科学の可能性に挑戦し続けることで、世界の人々の健康で豊かな未来に貢献します。」という企業理念を掲げる製薬会社です。KM バイオロジクスの詳細については、(<http://www.kmbiologics.com/>) をご覧ください。

## アステラス製薬について

アステラス製薬株式会社は、東京に本社を置き、「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」ことを経営理念に掲げる製薬企業です。アステラス製薬の詳細については、(<https://www.astellas.com/jp/>) をご覧ください。

## 注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。